

知っているつもり

校長 館岡 靖哲

3学期も早折返しとなる如月（2月）に入りました。今年の冬はここ数年の暖冬傾向とは異なり、気温の低い日が多く、北風の強い冬らしい日が続いています。乾燥した日も続いており、感染症にも注意が必要です。引き続き健康管理についてご協力をお願いいたします。

3年生は1月22日（木）～24日（土）を中心に私立高校の入学試験にチャレンジをしました。進路先が決定し、胸をなで下ろしている姿が見受けられる一方、多くの3年生は2月26日（木）、27日（金）の県公立高校の受検に向けて準備を続けています。3年生の皆さんがこの試練を乗り越え、自身の成長につなげてくれると信じています。また、3学期の始業式では、1、2年生に向けて、来年度より県公立高校の入試に面接が導入されるなど、多くの変更点があることをお話ししました。また、3年生になると意外に忙しく、1、2年の時間的に余裕がある時に高校見学や学校説明会に参加することが大切であることも伝えました。「備えあれば患いなし」今後も先を見通した進路指導に努めてまいります。

さて、今年度も10月初旬から3年生対象の「校長面接」を実施いたしました。その際、最も多く耳にした言葉が「切磋琢磨（せっさたくま）」でした。例を挙げれば、「私が大切にしている言葉は切磋琢磨です」「私が中学校で頑張ったのは部活動です。仲間と切磋琢磨し、良い成績を残すことができました」等々。そこで、何人かの生徒に「切磋琢磨とはどのような意味ですか」と尋ねてみました。その回答は予測通りで、ほぼすべての生徒が「友人同士が互いに励まし合ったり競争し合ったりして、共に向上すること」でした。実のところ、私自身も切磋琢磨とは志を同じくする者相互の向上への磨き合いといった理解で固まっていました。しかし、友人から紹介された書物には、次のように記されていました。

「切磋琢磨の3原則」

- ① 物を目先で見るのではなく長い目で見ることを心得ること。
- ② 物を一面的に見るのではなく多面的に見ること。可能なら全面的に見るように心がけること。
- ③ 物を枝葉末節で見るのではなく、根本に帰って見ること。

この物差しを持っているとよい。これは、物を考えたり議論したりするときの心得というものです。

『活眼活学』 安岡正篤 2007年 PHP 出版社

私自身、この書物を読んだときに、違和感がありました。そこで、「切磋琢磨」の出典を調べてみました。「切磋」の「切」は獣（けもの）の骨や角などを切り刻むという意味で、「切磋」の「磋」は玉や角を磨くという意味です。「琢磨」の「琢」は玉や石をのみで削って形を整えることで、「琢磨」の「磨」は石を磨くという意味です。つまり、玉や角、石などを磨くと光るようになることから、「切磋琢磨」の本来の意味は、学問や道徳を修めるために、努力に努力を重ねることであり、仲間やライバルと互いに競い合うことを指す言葉ではありませんでした。よって「切磋琢磨の3原則」は、自らの手で自らを磨くための具体的な指標であると理解できました。これは、知っているつもりでいた自分を省みる良い機会にもなりました。

本校の生徒たちも、夢に向かって切磋琢磨してほしいと願うばかりです。